



板室古戦場跡



板室古戦場跡に立つ犠牲者の供養塔



激戦のあった三斗小屋宿跡

文化財で紐解く…  
ほしん  
那須塩原の「戊辰戦争」

平成30年は明治元年からちょうど150年目。政府では「明治150年」としてさまざまな取組を行っています。一方、福島県会津若松市では、会津藩が旧幕府軍として戦に参加したことから「戊辰150周年」と名を変えています。

日本を真っ二つに分けた内乱、戊辰戦争。実は、那須塩原にもその舞台となった歴史があるのです。

板室古戦場（現在の油井・阿久戸・板室本村の一部）は、戊辰戦争での「板室の戦い」の戦場跡です。慶応4年（1868）閏4月22日、那珂川の谷を挟んで旧幕府軍と新政府軍が対峙。砲撃の間に新政府軍は那珂川をさかのぼり、う回して旧幕府軍の側面から攻撃を加えます。不意を突かれた旧幕府軍は、三斗小屋方面に退却しました。明治27年（1894）にこの戦いの死者の供養塔が建てられました。

また、標高1100mの山あいであり、会津と氏家を結ぶ会津中街道の宿場であった三斗小屋宿は、戊辰戦争の際には旧幕府軍の駐屯地となり、激しい山岳戦となった「三斗小屋の戦い」が起きた場所です。この戦いは新政府軍が勝利し、戦火で三斗小屋宿の14戸が焼失しました。宿跡の南方約200mの墓地には「戊辰戦死者千墓」が今も残っています。

文化財の今の姿だけでなく、その裏側にあるストーリーを知ること、理解が一層深まり、愛着も湧くのではないのでしょうか。

Topic

いにしえ  
古の宿場跡を訪ねて

三斗小屋宿は、江戸時代の末期には修験道の登山口として栄えました。参詣者が1日に千人超えという記録もあります。山々に囲まれた現地には、今でも寄進された常夜灯や石仏などが残っているほか、新緑や紅葉が楽しめる場所です。現地へは沼原湿原から登山ルートを通るのが一般的ですが、クマにはくれぐれもご注意ください！



祝！「日本遺産」認定！！

日本遺産 (Japan Heritage) とは、文化財を始めとした地域の歴史的の魅力や特色を地域活性化に活用しようという文化庁の事業です。点在する文化財を「ストーリー」として結びつけブランド化を図るもので、文化庁では、2020年までに100件の認定を掲げています。この度、大田原市・那須町・矢板市の3市町とともに申請した明治期における那須野が原開拓の歴史が、日本遺産に認定されました。詳しくは、7月5日号の広報で特集しますので、ご期待ください！

日本遺産 検索

私のまちの  
近い  
遺産